

# 京交山岳部報

## 今月のテーマ

〔第1779回例会〕

### 麻布2等と前黒法師岳

日時 4月 7日(土)～8日(日)  
6日(金)夜出発の予定  
コース 東IC-浜松IC-(R152)  
-水窪町…麻布2等1,685m…  
前黒法師(西)  
担当者 本局 三橋 勉(☎565)  
備考 テント泊りでいきます。

〔第1781回例会〕 京都府下最高峰

### 皆子山(971.5m)

日時 4月14日(土)AM7:00  
集合 出町柳駅京都バスのりば  
(AM7:35 梅ノ木行に乗車)  
コース 出町柳駅-足尾谷口バス停…皆子  
山…平バス停-出町柳駅  
担当者 高速 山岡昭弘  
(検車区☎3371 3382)  
( // ☎642-4332 )  
備考 申込締切 4月12日(木)午前中  
費用実費。地図1/5万北小松  
1/2.5万花背

## 《残雪を求めて》

〔第1780回例会〕 京都岳連自然保護委  
共催

### 小塩山

日時 4月 8日(日)AM9:00  
集合 西大路五条西入南側(京都交通バ  
ス停)または老の坂  
コース 西大路五条-老の坂…年谷川林道  
…外畑古道…小塩山…大枝山…京  
都霊園  
担当者 OB 坂井久光(☎881-0372)

〔第1782回例会〕

### 願教寺山

日時 4月14日(土)～15日(日)  
午後出発  
集合 壬生交通局  
コース 京都東IC-羽島IC-R156  
-白鳥-石徹白(泊)…石徹白川  
源流…願教寺山  
担当者 本局 三橋 勉(☎565)  
備考 申込締切 4月10日までに担当  
者までスキー組、ワカン組も可

〔第1783回例会〕

一府県境シリーズ(90年-1)-

丹後三原山(335m)

日時 4月29日(日)AM7:00  
担当者 本局 岡田茂久(☎698)局前出発

海に見える京都府県境の最西端の山で、天然記念物玄武洞も近く、金の環頭太刃の出土した湯船坂古墳も見学、城崎温泉で一風呂浴びて、出石の皿ソバを賞味しようというのんびり贅沢な山行き。参加者は事前に必ず連絡を下さい。 地図城崎1/2. 5万

〔第1784回例会〕

馬のタテガミ(1741m)

日時 4月29日(日)~30日(祭)  
コース 東IC-小松IC-鳥越村-尾口村-尾添...白山旧道...馬のタテガミ

担当者 本局 三橋 勉(☎565)  
備考 テント泊り、マイカーで行きます。

— 今月の集会 —

日時 4月10日(火)PM6:30  
場所 厚生会館4F大教室

— 企画運営委員会 —

日時 4月19日(木)PM6:00  
場所 厚生会館4F大教室



ゴルフ場は今

岡田茂久

最近、いろんな人からゴルフはするのですかとよく聞かれる。「いや、金と暇がなくて」とあまいに答えて、せっせと山行きにせいをだしているが、先日来続いて、どこでどう間違ったのか我家に長野県と茨城県、それになんとカリフォルニア州はパームスプリングスとセブ島のゴルフ会員権の募集案内が郵送されてきた。まったく日本国中まさにゴルフ場ラッシュ。サンドサットの赤外線写真による最近の関東地方の地勢を、十数年前の写真と比べてみると、まさに空恐ろしい感じがする。地方においても故郷活性化の為のリゾート開発にからんで、まずゴルフ場の建設が計画されることが多い。

最近のゴルフ場建設ラッシュは、需要と供給の原則からみても、ゴルフ人口が増えたからという単純なものではなく、金余り現象からの利殖の対象としてみられているように思える。京都からどうしてそんな遠方までゴルフをしにいくことが出来よう。

京都府においてもゴルフ場建設ラッシュは例外ではない。すでに府内で既設及び建設中のゴルフ場は30ヶ所余(3,400ha)、協議中のものが35ヶ所余(4,500ha以上)もある。

合算するとこれはなんと、宇治市と久御山町を合わせた総面積に匹敵する。この広大な土地が一

面の芝生になった光景を想像してみよう。

大文字山裏のゴルフ場建設計画は一応白紙に戻ったようであるが、丹後半島の「丹後リゾート計画」や、奥上林の世界一のサーキット場を含んだ「ときめきランド計画」等は着々と計画が進んでいると聞く。非生産的な一見美しい緑色をした砂漠、まさにこれは環境破壊のなにもものでもない。

緑色をした砂漠化にもまして問題なのは、ゴルフ場の芝生の肥料と除草剤等の農薬による環境汚染である。近年の調査では全国のゴルフ場での農薬使用平均量は、1ゴルフ場あたり年に2トンに及ぶという。ベトナム戦争での悲惨な歴史を残す猛毒ダイオキシンは除草剤CNPの副産物で、すでに20年以上も前に禁止になったBHC、DDT等も、河川や地下水の水質検査では最近また増加の傾向をみせている。

さすがに危機感を持った北海道と兵庫県の次に、全国で3番目にゴルフ場の多い千葉県では、今後建設されるゴルフ場について、農薬の使用を禁止する旨の指導要綱を発表した。東京、神奈川や栃木県ではゴルフ場の新設や増設を全面凍結。兵庫県では新設と増設を原則的に禁止し、ゴルフ場の無い市町村だけに1ヶ所のみ建設を認める規制に強化した。京都府にも開発規制要綱があるが、残念ながら今では有名無実の感がする。

府県レベルで規制が出来ないならばと、故郷破壊に危機感を覚えた石川県の白山山麓の河内村では、ゴルフ場建設計画地に作家の宮尾富美子、永六輔俳優の田村高広氏等の文化人グループに、自分たちの土地を無償で別荘地として提供、名前入りの杭打ちをして開発防止を狙うという、ユニークな反対運動を新聞が紹介している。

折しも、「ゴルフ場問題を考えるシンポジウム」が、先日京都教育文化センターで開催された。シンポジウムでは地域振興、自然保護、環境保全、環境汚染等幅広く討論されたが、残念ながら根本的な解決方法のための、アクションを起こす迄にも至らなかったようである。

自然を愛する我々山屋も、藪漕ぎの末に苦勞をして三角点に到達すればゴルフ場の芝生の中だったり、ボールの直撃を警戒しながらの登高や、かつての清流が農薬汚染で飲料不可になるなど、弊害は大なり小なり受けている。しかし、ゴルフをスポーツとするなら、スポーツを愛する者同志又地域振興への施策と、自然保護、環境保全、環境汚染等との調和への道を真剣に考えてみる必要がありはしないだろうか。しかし、金 けだけのゴルフ場建設には断固反対をしたい。

〔第1769回例回〕 スキーツアー

## 権現山と大渚山

三 橋 勉

2月の連休に志賀高原岩菅山へ行く予定が、参加者が急用等で3人となりラッセルを考えると少し無理と判断し、計画変更して大系線沿線の権現山と大渚山に行くことにした。

初日は築場スキー場のリフトを2本乗り継いだ所で、昼食をとった。ここは後立山連峰の見える絶好の展望台で、目の前には、青木湖の水面があり、その後方に鹿島槍の双壁から五龍、唐松、白馬三山を眺めながらの贅沢な昼食となった。

ここからシールを付けて、いよいよスキー登山の開始である。今日は良い天気であるが気温が高いのが気になる。途中までラッセルの後があり、尾根を登って高度を上げて行くにつれて、北側の雪山の展望を楽しみながら約30分の登りで頂上に到着した。

頂上はさすがに1等三角点らしく、360度の展望であったが残念ながら、1等三角点は雪の中であった。少し離れた所に大きな案内板があり、山の絵と山名が描かれていて、その後方に実物の山々があって成程よく分かった。

下山は待望のスキー滑降であるとハリキッタが、気温が高く重い雪なので思うように曲がってくれない。それでも何とかゲレンデまで滑って来ると、やはりゲレンデは滑り易い。少し時間も早かったので夕方まで自由に滑ることになった。このゲレンデは、一番上だけがコブの急斜面で左側にエスケープルートの谷コースがあるが、後は緩い初心者コースが長く続いているので、空いていて家族向けには良いコースである。

2日目は、信州では季節外れの大雨となった。スキーどころではないので、大町の郊外にある金熊温泉でゆっくりと汗を流し、自家製のおいしいそばを食べた。

3日目の朝は、昨日までの激しい雨も止んだので、大渚山へ行くことになった。小谷温泉まで車で行き、そこからシールを付けて支尾根を登ることにする。

春山を感じさせる暑さの中を一汗かくと、伐採された小広い尾根に出た。ここは昔の小谷温泉スキー場であると聞いたが、現代スキーヤーの泊まり客は、車で白馬方面へ滑りに行くらしく、リフトがなければ、ゲレンデとして、利用しないようである。

指導標に従って高度を上げて登って行くと、やがて広い台地状の鎌池に出た。すると北の彼方に南面の雨飾山が薄日に輝いて見えた。そして西の方向には目指す大渚山が、姿を現した。

池を過ぎて急斜面を登り切ると、林道に出た。緩い登りの林道を西方向に進み、距離を稼いで湯峠に到着、昼食の焼肉を炒めているとき雪が降って来て、見る見るうちにガスに覆われて一寸先は闇となった。

もうこれ以上進むのは無理と判断して、(これからが本番なのに、なにか残念な心残りの気もするが)勇気ある撤退と相成った。シールを外してもと来た道を引き返す事となったが、余り滑らなかった。

鎌池を過ぎて旧のゲレンデまで戻り、邪魔な木がなくなった所で思い思いのシュプールを描き無事下山した。小谷温泉の山田旅館で汗を流し、夕食をしてから北陸回りで帰京した。

〔参加者〕大槻 雅弘、関本 俊雄、三橋 勉

〔コースタイム〕(大槻) \_\_\_\_\_

2月10日 京都東IC 22:10

11日 築場 4:45…スキー場上部(昼食) 12:00…権現山一等三角点(1,223m)

13:05…スキー場で滑る 15:30

12日 雨で山小屋と金熊温泉

13日 山小屋 7:30 - 小谷温泉 9:50…湯峠 11:50(昼食) 12:55…小谷温泉

14:40~18:00

14日 京都2:00

(第1770回例会)

## 籠 山 ニ タ ン ダ ニ ( 智 頭 )

伊 藤 潤 治

籠山は、地図の智頭図が当部の山岳活動が空白であることと、日本山嶽志の「因幡国八頭郡ノ西方ニアリ、富沢村大字総地ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。標高三千六百三十三尺」があり、例会にしてもらった。

ちなみに手元の資料には、宮崎日出一兄、1985年の山岳巡礼第51号があった。

名神・京都南から中国・佐用まで、更にR373号を走って智頭町につき、「籠山の壮大な姿に、胸おどらせながら」日本山嶽志登路の惣地に入った。

登路は、地図の破線をたどる予定であったが、その古老は、営林署の苗圃経由をお勧め下さった。その苗圃は、中田に戻り最初の家を、左折で入れと教わった。

左折で渡る橋が分らず、坂原に出てしまった。こんな失敗は多いが、いつも里人の助言は温かく。思い出にも残り、よき旅には、これくらいの脱線は必要であろう。公民館・神社の里道は、すぐ中田の道に合い、山林を少し入ると営林署の建物と共に、これが苗圃であろう。思いがけぬ広大な耕地を開いてあった。

この地名は、竹美(タケミ)というそうだ。耕地の上限(標高250m)より、左右が植林の車道を行く、間もなく右が坂原に至る流れとなり、その左岸へ渡る作業道を見たり、「籠山無線中継所、2,250メートル」標を見て進むと、路面が泥土化して、気がつくとは道は耕うん機の幅で、その道の終点は、暗い植林を抜けるとすぐだった。

伐採地裾で左岸に移った地点へ、顔を出したのは、桜尾山△957m。そのごも桜尾山の見目のよさに、心は惹かれっぱなしである。

谷から尾根へも作業道があった。笹地に植林を育てるべく努力されたすがすがしい尾根をたどり、Ⅲ△700m、市之瀬・点に上った。あまりの大観に歓声をあげ、穂見山・洗足山その周辺をにらみ、思わず長居をした。

清らかなまぶしい雪稜を、好天でほしいまゝの眺望。しかも緩登である。これほど結構な遊びを楽しめるのは、きっとご精進の賜物ならん。

籠山無線中継塔の次峰が、籠山Ⅲ△905mであった。ここは360度の回転展望台の見晴しがあって、とうてい列挙はできない。私は未登の多い高鉢山・高山方向の白い山波が印象深かった。

下山では、雪面に可憐に立つ茅、ウツギ、アセビその他に気がついた。だがこれらは、やがて無雪期には藪になる恐しい木々たちであろう。△700m手前で右の疎林へ逃げ、林道近くに下り駐車点に戻った。

(コースタイム) 2月18日

名神京都南6:40-中国宝塚7:09~7:22-中国佐用8:25-竹美9:30-林道終点10:40~50-△700m11:18~11:40-籠山13:00~14:10-林道

終点 15 : 33 - 竹美 16 : 25

このあと喜当次△1,001m(坂根)に登り、私なりの智頭町五山、東山・沖ノ山・穂見山・籠山・洗足山を展望したかったが、無理な時間になっていた。

それでもう一つ次の手、小西利雄兄ご報告のある、今西錦司先生の後塵を拝してきた。

先づその小西利雄君の名紀行、「一洗足山に登ったせい、今西先生さして桜尾山には執念を示さず。引返すように指示される。一地図を見ていた今西先生。コルで車を止めろという。646.2mの三角点があるのでその三角点を押えるという。稜線南側はヒノキの植林をしたばかり。稜線はひどい笹。前方の尾根先端に測量槽らしきものが見える。先行した藤井さんが笹の中の三角点を発見。万歳。35分のひどい藪漕ぎだった。西宇塚に下る途中畑仕事のオバサンに、車の窓から山の名を聞くがどうも分かんぬらしい。”谷はニタンダニというが、”とのことだった。今西先生の1500山の記録には、ニタンダニとあった。55・4・19。(峻峰・復刊第Ⅶ号)」こういう結構な資料をもらっているのである。

私たちもそのコルに着いた。そこには私たちを待っていたような立派な林道があって、おかげで訳なく上れたが、那岐山、滝山のいぶし銀の巨像に圧倒されたのだろうか、Ⅲ△646m(口宇波・点)さんは、すんなりおでまし下されず、平石山△1061.2m(山崎)の二の舞になりそうな△だった。

この感動と充実感は思いがけない拾い物であった。

林道 17 : 10 - △ 17 : 25 ~ 30 - コル 17 : 40 … 物見峠 17 : 50 … 中国津山 18 : 00  
… 勝央 S. A 18 : 25 ~ 19 : 00 … 長尾 20 : 20 - 京都南 21 : 00。

[参加者]

三橋 勉、高木志茂子、伊藤 潤治

[第1772回例会]

## 大段山・千町ヶ峰。大屋市場・姫路五号。

伊藤 潤治

三日も降り続くと準備がおっくうだった。明けてその三月四日は、三橋君にきてもらい大槻君とは久しぶりなどが天意にかなった、すがすがしき朝。

風を切って国道9号線を行けば、並み居る山々の目迎目送や栗栗山や三嶽山のほほ笑みかけに会い。矢名瀬から国道312号線へ小廻りした行く手に、白く輝やく峰が出て、雪を忘れて出掛けておりギョツ。

朝来町、神子畑から笠杉トンネルを宍粟郡一宮町へ抜けては、そゝがれたばかりの白雪がまぶしく、百千家満(おちやま)路の緊張も草木ダムの美景にはぐされるなどなど、快適裡に下千町の山里に到着した。

里人をみて、登路を尋ねるべく停つた所がちょうど登り口、こんなにそつのないのは珍しい。

1986年師走にお世話になった久保嘉一さんの横から山裾を縫い、カナリノ谷右岸に出て、まめまめしい奔流をまたぎ、またぎ返して行くと、踏跡は疎林で露岩の目立つ潜流斜面にかゝっていた。

小鳥の音がする陽差しに腰を下ろすと、千町ヶ峰の巨姿は、新雪によるゴマ塩模様で視野を押し

ていた。  
間もなく踏跡は希薄となるが、わずかの藪にて、新雪をくっつけた木立の尾根にあがれた。早速・我慢していた雨具をつけたが、ここにスカートが登場した、こいつは名案であると感心した。

尾根は植樹されお粗末ながら笹を払った踏跡もあり、左方に白い山波の輝やきを散見して進むと、前方に篠竹群がこんもり横たわっていた。

これを粉れものう山頂であると信じ、雪をけちらして入り△を探したが、航空標識。赤テープ。一宮町標のみ。だが執着している時。遙かより、ホイッスルとコールがあり、夢中で駆けつけると、大段山Ⅱ△966.0m、繁盛、点は、植林に目隠された櫓と共にあった。よくぞ嗅ぎつけてくれたと涙の出るうれしさだった。地形図をあらためてのぞけば、△はこの位置である。なぜ当初からこのように地形図が読めなかったのか。

若い両君との昼食は、熱くて食欲をそゝる美味が並び、特に楽しく、あつという間の80分。住路を露岩帯に戻ってくると、千町ヶ峰の巨体は、シコノ山△848mの折の伊吹山(長浜)や、三国山・572mの折の三嶽山(大江山)の雄大であった眺めを思い出させ、また付近には、美濃や近江の山地で記憶している風景もあって、喜ばしてくれた。

[コースタイム]—————

京都6:55-福知山8:10-R312号8:50-下千町9:35~50-尾根10:55-△11:40~13:00-下千町14:10。

## 千町ヶ峰

帰ってしまうにはいささか早く、道沿いの姫髪山(福知山)でも拾って行こうかと、わずかな余裕時間を勿体ながっていた時、親切な今朝の里人が現れ、にわか千町ヶ峰行きが決まった。

まさに曲垣平九郎の馬術もかくやと、舌をまくハンドル裁きは、あれよ、あれよの裡に、何と標高・1065m辺りまで駆け上っていた。

無線塔を経て、Ⅲ△1,141.3mに立つと、大段山はふびんにも足下に沈んでいたが、須留ヶ峰。床尾山。粟鹿山。笠杉山。段ヶ峰。千ヶ峰。笠形山。平石山。高星。点。夜鷹山。暁晴山。黒尾山。いぶし銀がきらめいて連なる三室山。赤谷ノ頭。氷ノ山。鉢伏山。妙見山。その他沢山が見晴らせた。

初登(1986年12月21日)は皆無であった景観を補ってあまりある展望で、この日の千町ヶ峰は、タワーの感動を満喫させてくれた。

そして、山は、やはり高きに限る。と思ひ直さねばならなかった。

日本三嶽志の「ダルヶ峰、播磨国宍粟郡ノ北東ニアリ、繁盛村ヨリ一里十四町ニシテ其山頂ニ達ス。全山石英粗面岩ヨリ成ルモノノ如シ。標高凡三千尺。」は、大段山であると考えて登ったが、次いで、千町ヶ峰に登ってみると、語呂は合わないけれどもダルヶ峰は、千町ヶ峰のことかも知れ

ない。と思うようになった。

〔コースタイム〕

下千町 14 : 15 - 駐車点 14 : 55 ~ 15 : 00 - △ 15 : 25 ~ 40 - 駐車点 16 : 00 ~ 05 - 下千町 16 : 30 - 福知山 18 : 00 - 京都 19 : 40。

〔参加者〕 三橋 勉、大槻 雅弘、伊藤 潤治

〔個人山行〕

## 空山 △ 5 9 5 m 登頂記

津 田 実

かって山声雪語氏も「雨天の山行には心せよ」と喝破されたが。

その御高説に敢えて逆らった訳ではないが、降雨も予想されるが、例によって酔狂者 3 名、降ってもたいしたことはなからうと横着をきめ込み、R 9 号は下山駅方面へと車を駆る。

いつも大槻さんや、三橋さんに送迎付きの山行きをさして載っているのに余りにももったいないと、久振りに我がボンコツ号のご用達となる。

R 2 7 号を J R が高く跨る地点を潜り、右手ガソリン・スタンドの横から山手に入る道がある。その地点に車をデボして「蕨」集落へ向かう。集落の中程に立派な二重の塔のあるお寺が出現した。これが北山クラブのレポート集に載っていた大福寺と多宝塔かと思出す。

充分に拝観させて戴きたかったが、山行きが先と拝観を割愛して広い林道を山へ入る。小さな峠状を越えると右下に旧道が現れ、その道と今歩いている林道が合流する地点を少し過ぎると切通しが出現した。

その切り通しの手前に古びた小道が山腹に沿って山中へ入っている。切り通しの端の急な斜面を登る小径があったが、右手の古道へ歩を進める。その道が消えかかった地点から左手の急斜面のヤブへ転把、ローギヤで突込む。

ヤブは美濃で鍛えられているので、歩き方は承知している心算だが、如何せん肝心のエンジンがボンコツ、忽ち空滑り。タスケテクレー。そこでギヤを四駆に切り替え稜線に迎りつく。

尾根のうへは雑木の疎林で歩き易い、登った地点から左へ進むと、右下に尾根に沿うように小径があったのでそれを進む、然しこれは谷間へ降りているので又もや、尾根筋を忠実に歩く。

すると、突然峠状の処へ出た。峠は、左手は良い道だが、右手は杉林の中に消えていた。何はともあれまづ一服。アア、シンドー

峠から更に尾根筋を歩き易い小径の急登を進み、左手に先程の村落か？林道の一部か？が見えた地点で安心したのか、偶然か、突然ラジエターが沸騰。忽ちエンジン不調・水分補給。

全く世話のやけるボンコツ（何とも厄介な老体）。それを怒りもせずいたわる大槻夫妻。麗しい友情。ただ感謝あるのみ。こんな状態では何時に山頂へ着くことやら。それでもなんとか三角点に迎り着いた。

途端に今まででなんとか持った空から歓迎の雨滴く、こらかなわん。隠れるところはなし。うろう



ろしていると大槻さんがツェルトを張ってくださった。親切でよく気の付く先輩だ。お礼もそこそこに潜りこむ、食事の用意をして愕然。シマッター。御神酒を忘れたー。意気消沈。すると忽然としてビールが出現したのには驚く。「コレヤロー」とニンマリ大槻さん。この時ほど彼の顔が神々しく見えたことはない。深謝。拝受。

勇氣百倍。飛ぶようにして先程の峠へ降りる。峠からは雨も止み、道は廃道と化していたが、杉林を過ぎると右下に林道が見えた。

その付近から道は消失、崩落防止用のネットが張られ、その網目から草が伸びて雨に濡れ滑り易い、ここで滑落したらオロク間違いなし。思わず膝が武者震い、「コノザマ」を芦本与太郎氏が見たら笑いよるやろなー。大槻さんの奥さんの励ましの声もうわの空、震えながらなんとか悪場を越して林道へ出ると、何と朝の古道の直ぐ近くにでた。朝に見た切通しの踏跡とはこの道だったのだ。

大福寺の本堂の屋根の優雅さと、多宝塔の深紅と、鍾樓の優美さに心奪われ。豪邸の向こう雲に霞む空山。

雲、寺院、鍾樓、多宝塔、正に一幅の絵画しか表現できぬ美しさ。

こんな良い山へ、お寺へ、お連れくださった大槻ご夫妻、ありがとうございました。

〔参加者〕大槻ご夫妻、津田 実

〔コースタイム〕

上桂 8 : 20 - 下山 9 : 20 - 尾根に出る 10 : 25 - 峠 10 : 45 - 空山△ 11 : 45 ~ 12 : 45 - 峠 13 : 20 - 下山 14 : 10 - 上桂 15 : 30

1990年2月25日

〔個人山行〕

## 山科北部の山（長等山～大文字山）

△ 370.8 m    △ 466.0 m

山岡 昭 弘

2月28日、晴れ、今日は1人で山歩きをしてみようと思立ち、8時50分国道山科バス停から西大津バイパス經由西大津駅行のバスに乗る。長等山トンネルを越え、左手の山に千石岩を望みながら、1つ目の皇子ヶ丘公園バス停でバスを降りる。

皇子ヶ丘公園を通り抜け、西大津バイパスを越え、早尾神社へ向かう。平尾神社で本日の無事を祈り、神社の右手から千石岩への登山道に入る。だんだんと急になってくる山道を20分程登りつめ、千石岩へたどり着いた。せっかく来たのだからと、千石岩の低い部分に登ってみることにする。千石岩の上からは浜大津市内の町並や近江大橋が手に取るように一望できた。写真撮影の後、長等山へと向かうことにする。

千石岩から左手の登山道に入り、ピークを登っていくと、いきなりゴルフ場（皇子山カントリークラブ）の駐車場に出てしまった。地図とコンパスで長等山の位置を確認しながらゴルフ場を通り抜けることにする。ボールが飛んでこないか気にしながらゴルフ場の端を5分程歩くと左手に登山

道が見えてきた。振り返ると、木々の間から千石岩が見えていた。山道を登りつめ、長等山三角点にたどり着いた。三角点を過ぎ、ゴルフ場を経て、如意ヶ岳へと向かう予定であったのだが、道をまちがえてしまい、藤尾神社の奥の林道に降りてしまった。仕方がないので、林道を歩いて大文字山へ向かうことにする。

林道を10分程歩くと、林道が切れ、山道となり、坂が急になってきた。ひと汗かいたところ、池谷地藏、如意ヶ岳方面と大文字方面との分岐があり、如意ヶ岳からの林道と出合った。ここから大文字山の手前まで、林道と登山道とが並行して続いていた。林道と別れピークを登りつめると、点側点と三角点の標石が仲良く並んだ小さな広場に出た。ここが大文字山山頂である。木立ちの間から京都市内が見えていた。ここで30分程休憩、昼食の後、大文字火床へと向かうことにする。

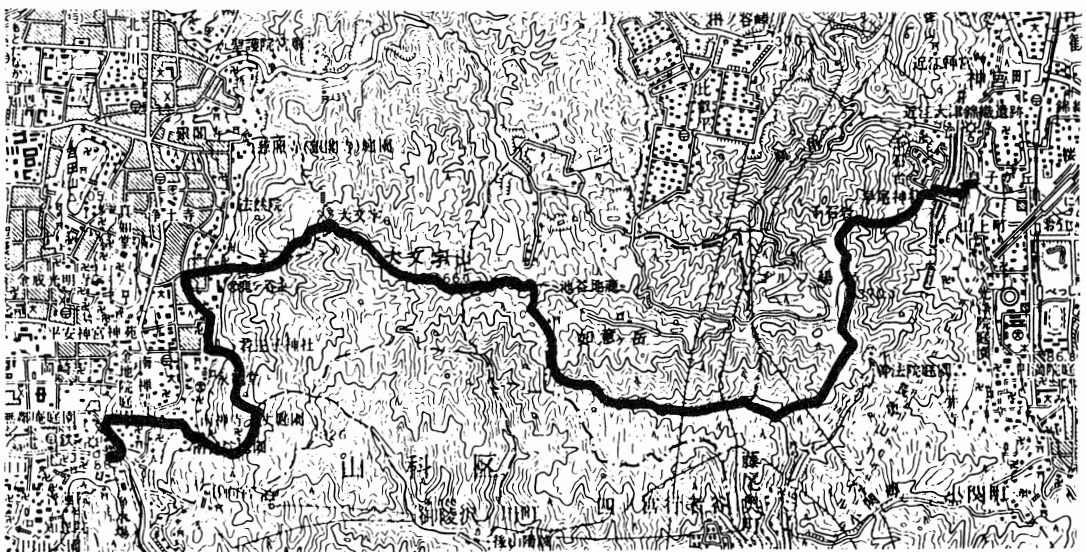
足元に注意しながら坂を下ると、急に目の前がひらけ、京都市内が視界一杯に広がり、「大」の字の頂上に出た。ここで写真撮影の後、しばらく休憩する。少しかすんではいたが、正面には愛宕山、竜ヶ岳がきれいに見え下には吉田山、御所の森が広がっていた。

「大」の字の第3画の火床に添って石段を下り、霊鑑寺の横へたどり着いたのは13時30分。哲学の道を若王寺神社まで歩き、南禅寺裏山、最勝院、赤レンガづくりの南禅寺水路閣、南禅寺三門、琵琶湖疎水記念館、インクラインと史跡巡りを楽しみ、蹴上バス停に到着したのは15時30分過ぎであった。

〔参加者〕 山岡 昭弘（記）

〔コースタイム〕

国道山科8:50→皇子ヶ丘公園9:05~9:10→早尾神社9:30~9:40→千石岩  
10:00~10:10→長等山三角点10:45~10:50→藤尾神社林道11:15→大文字  
三角点12:05~12:40→大文字火床12:50~13:00→霊鑑寺13:30→蹴上  
15:35



# 平成元年度山岳部

## 総会報告

3月15日(木)18時30分より、下鴨寮において、平成元年度の京交山岳部総会を開催しました。議長の吉田武氏の開会宣言後議事に入りました。

[出席者]

(OB) 近藤、伊藤、山村、坂井、奥村、河村、津田、横井、辻

(本局) 渡辺、方山、大槻(雅)、三橋、川原、原田、若山、竹田、和田、井上、古市、井戸、山口、田村、岡田、鷺見

(高速) 大倉、山岡、松田

(九条) 鷺見

(梅津) 吉田

## 議 題

- 1 平成元年 京交山岳部事業報告
- 2 平成元年 山岳部活動表彰
- 3 規約改正
- 4 平成元年度 会計決算
- 5 平成2年度 会計予算  
平成2～3年度 役員改選
- 6 平成2年度 京交山岳部年間計画
- 7 その他 名誉部員の表彰について

### (1) ー平成元年京交山岳部事業報告ー (岡田部長)

平成元年は山岳部年間計画のメインテーマも、「自然へロマンを求めて、安全で楽しい登山、自然の中に余暇を有効に」というように欲張り、山岳部40周年にあたる年でもあって、山岳部活動の隆盛が期待された年であったのですが、例年がない不本意な山岳部活動の結果に終わってしまいました。

まず、山岳部活動の根幹である例会からみると、年間45回で月に4回程度の計画でまずまずですが、例会参加人員が大幅に減少しているのが気になることです。

例会参加人員は230人、例会1回当たりの参加人員は6人で、いずれも昨年から比べると1割減。なかでも例会参加経験部員は40人程で、部員の3割程度しか例会に参加しないということになります。10人以上の参加人員を得た例会も3割減となり、京都国体を契機に山岳部活動のより隆盛

を目指していたのですが残念なことです。

原因はいろいろあると思いますが、限られた一部の部員のみが例会を担当しているからで、主として例会を担当するリーダー連に故障が多かったことから、例会数がやや減少したことに加え、その反動として個性的な例会の割合が増加し、近郊の一般的な軽い山行きの例会が減ったことも、それに輪を掛けた一つの原因になったと考えられます。

これはどのような山行に参加者が多いかをみると、例年のことですがイベント的な登山大会やお祝い登山には、いつも20名を越えるほどの参加者があるが、近郊登山はまあまあとしても、普段の山行での参加者が相変わらず少ないことからもうかがえます。

例会数、例会参加人員を増やすため近郊の軽い山行き等を増やすか、例会参加人員のことは考えず個性的な山行きをするかは、山岳部としての将来にとって難しいところです。しかし、山岳部の例会担当はリーダーで無ければということではなく、近郊の軽い山行き等はだれでもが気軽に例会担当をして、限られた例会実施可能日を有効に使い、二つ以上の性格の異なった例会が重なってもいいのではないかと考えています。

全部員がせめて2ヶ月に1回の例会参加をしたとすると、これだけでも延700名になります。年1回の例会を担当すれば120回で月10回もの例回が組めます。決して参加数が多いから良い山行きとは限りませんが、少なくとも例会数と参加人員は山岳部の活動のバロメーターですから多くしていきたいものです。

一方、集会の方も殆ど例年共横ばいで、せめて月集会は20名平均の参加者は欲しいものです。山に行かないから集会に参加しにくい。集会に参加しないから山に行きにくい悪循環になっているようです。いっそうの声掛け運動が必要なところではあります。

集会で次の山行きの計画をし、山にあって、集会で報告、部報に投稿。このパターンは大事ですが、まずこの内の一つからでも実行してください。ちなみに例会参加。集会参加と投稿のどれかに一回以上の部員は72名とやや増加しましたがまだまだです。そのなかでもOB連の活躍がやはり目立つところで、ここでも現役は負けずに頑張りたいものです。活動表彰のランクは企画委員会のメンバーが占めており、独善的な企画をしているのかと反省する処で、集会でもっと色々な声を聞かせて頂き、山岳部活動をより魅力のあるものにしていきたいと思っています。

今年はインドアの勉強会のテーマを、山行きの中だと発展的に解消しようとしたのですが、うまく整合ができなかったようで、来年の一つの課題です。

厚生会登山は、双六から槍ヶ岳で参加者には大変好評でした。レベルを交互にするところから、2年度は妙高山の予定で、我々もより魅力あるプランと出来る限りの労力を、職員厚生事業傘下の職域山岳会として協力したいと思っています。

本年は創立40周年。色々なイベントが実施されました。記念登山は40周年にちなんで北緯40度近辺の森吉山を始め東北地方の山を7月に実施。記念集会も盛況で、記念品も重宝していますとの声が寄せられて喜んでます。記念誌、京都の500m以上の山を網羅した「京都の山200余山」は近く脱稿の予定で、出版委員会で鋭意準備が進んでいます。出版委員から協力の要請があればよろしくお願いします。

平成元年1月～12月の活動状況

(平成元年12月末現在の部員数125名 内OB部員26名)

<例会>

第1720回～第1764回まで 計画45回 実施38回 中止7回  
全例会の延べ参加人員 231人(部員以外を含むと267人)  
一例会当たりの平均参加人員 6.1人(部員以外を含むと7.0人)  
例会に参加した部員数 44人(全部員の35.2%)  
〔参考〕10人以上参加のあった例会……6回  
1人だけ(2人以下の例会……2回(4回))

<集会>(45周年記念集会を除く 部員36名 部員外13名参加)

平成元年1月(新年会兼集会)～平成元年12月 計画実施12回  
全集会の延べ参加人員 190人(新年会、総会除くと125人)  
一集会当たりの平均参加人員 15.8人(新年会、総会除くと12.5人)  
集会に参加した部員数 46人(全部員の36.8%)

<投稿>

部報発行 平成元年1月号～12月号 発行12回  
全部報の延べ原稿数 87 (山声雪語等を除くと75稿)  
〔参考〕OB部員からの投稿 29稿(33%)  
各号当たりの平均原稿数 7.3 (山声雪語等を除くと6.3稿)  
〔参考〕一部最高原稿数 11 一部最低原稿数 3  
投稿した部員数 25人(全部員の20%)

<総合>

例会、集会、投稿のいずれかに1回以上参加(投稿)した部員 72人  
(全部員の57.6%)  
例会、集会、投稿の各々に1回以上参加(投稿)した部員 19人  
(全部員の15.2%)

(2) 平成元年 山岳部 活動表彰 (鷺見副部長)

例会参加		集会参加		部報投稿		総合 (バランスのとれた) 部活動	
17	奥村弘信	11	奥村弘信	8	津田実	①	45 岡田茂久
17	三橋勉	11	三橋勉	①	8 横井襄二	②	34 大槻雅弘
17	岡田茂久	11	岡田茂久	8	大槻雅弘	③	38 三橋勉
15	大槻雅弘	11	大槻雅弘	②	7 坂井久光		32 横井襄二
14	横井襄二	11	方山宗子	7	大倉寛治郎	④	31 奥村弘信
14	津田実	11	大倉寛治郎	5	三橋勉	④	31 大倉寛治郎
18	大倉寛治郎	10	横井襄二	5	岡田茂久	⑥	24 津田実
11	古市昌造	10	古市昌造			⑥	23 古市昌造
①	11 方山宗子	①	10 和田良一				22 方山宗子
8	大木秀実	10	吉田武				20 坂井久光
7	今井勇一郎	9	坂井久光				19 吉田武
7	田村正弘	9	井戸澄夫				18 大木秀美
7	吉田武	9	大木秀実				17 井戸澄夫
7	原田加津子	5	今井勇一郎				
		5	山元誠一				
	※10回以上を対象		※10回以上を対象		※山声雪語等を除く ※6回以上を対象		※山声雪語を含む

(補足) 創立45周年には特別表彰を行います。皆様からの企画をお待ちしています。

### (3) 規 約 改 正

<現 行>

#### 第3章 役 員

##### 第8条(役 員)

山岳部に次の役員を置く。

部長	1名
副部長	2名
企画運営委員	若干名
リーダー	若干名
本部委員	若干名
支部委員	若干名
上部団体への派遣役員	若干名

##### 第9～12条<省 略>

##### 第13条(役員の選任及び任期)

役員は、総会で承認を得て決定する。

- 2 役員は任期を2年とする。ただし再任及び兼任は妨げない。

### (岡田部長)

<改 正>

#### 第3章 役 員

##### 第8条(役 員)

<同 左>

##### 第13条(役員の選任及び任期)

役員は、総会で承認を得て決定する。

- 2 役員は任期を2年とする。ただし再任及び兼任は妨げない。
- 3 前2項にかかわらず上部団体への派遣役員については、企画運営委員会で選任し登録する。

(4) 平成元年度会計決算・平成2年度会計予算 (会計 川原)

単位 円

平成元年度京交山岳部会計決算					
収 入		金 額	支 出		金 額
一 般 会 計	1 部 費	638,333	1 備品消耗品費	77,000	
	OB 149,500		2 助 成 金	14,000	
	本局 270,833		3 集 会 費	0	
	西賀茂 0		4 総 会 費	30,000	
	梅津 15,000		5 部 報 代	474,972	
	五条 5,000		6 通 信 費	39,571	
	醍 醐 10,000		7 遭対資金積立金	60,000	
	横大路 5,000		8 岳 連 会 費	9,500	
	錦林 20,000		9 事 務 費	2,871	
	九条 20,000		10 45周年記念積立金	100,000	
	烏丸 53,000		11 雑 費	12,680	
	洛西 25,000		12 次年度繰越金	258	
	高速 60,000				
	市役所 5,000				
	2 厚成会助成金	60,000			
3 雑 収 入	119,705				
広 告 料	80,000				
雑 収 入	39,705				
4 前年度繰越金	2,814				
合 計	820,852		合 計	820,852	
40 積 周 立 年 金 会 記 念 計	1 次年度繰越金	415,000	1 山 行 助 成	11,032	
	2 45周年記念積立金	100,000	2 記 念 品	243,238	
			3 記 念 集 会	74,654	
			4 45周年繰越金	186,076	
	合 計	515,000	合 計	515,000	
遭 難 対 策 資 金	1 前年度繰越金	1,611,313	1 次年度繰越金	1,708,180	
	2 利 息	36,867			
	3 一般会計繰入金	60,000			
	合 計	1,708,180	合 計	1,708,180	



平成2年度京交山岳部会計予算				
	収 入	金 額	支 出	金 額
一 般 会 計	1 部 費 (125×5000)	625,000	1 備品消耗品費	40,000
			2 助 成 金	30,000
			3 集 会 費	12,000
	2 厚成会助成金	60,000	4 総 会 費	20,000
	3 雑 収 入	110,000	5 部 報 代 (45000×12)	540,000
	広 告 料	80,000	6 通 信 費	40,000
	雑 収 入	30,000	7 遭対資金積立金	60,000
	4 前年度繰越金	258	8 岳 連 会 費	19,000
			9 事 務 費	4,000
			10 45周年記念積立金	30,000
			11 雑 費	258
	合 計	795,258	合 計	795,258
45 積 周 年 記 念 計	1 40周年残金	86,076	1 次年度繰越金	216,076
	2 元年度積立金	100,000		
	3 2年度積立金	30,000		
	合 計	216,076	合 計	216,076
遭 積 難 立 対 金 策 合 資 計 金	1 前年度繰越金	1,708,180	1 次年度繰越金	1,810,885
	2 利 息(2.5%)	42,705		
	3 一般会計繰入金	60,000		
	合 計	1,810,885	合 計	1,810,885

※ 三和1年定期  $3.39\% \times 0.8 = 2.7\%$

## (5) 平成2年～3年度 役員改選 (岡田部長)

〔本部役員〕	部長	岡田 茂久			
	副部長	鷺見 敏一・大槻 雅弘			
	事務局	津田 実・山口 雅直・大木 秀実			
	会計	川原 伝治			
	備品	古市 昌造・田村 正弘			
	部報	井戸 澄夫・山元 誠一・井上 一夫			
		(発送 馬淵 拓己)			
〔リーダー〕	岡田 茂久・鷺見 敏一・大槻 雅弘・武田喜久郎・田中 忠久				
	三橋 勉・吉田 武・大倉寛治郎・岡本義弘				
〔企画運営委員〕	岡田 茂久・鷺見 敏一・大槻 雅弘・田中 忠久・三橋 勉				
	吉田 茂・大倉寛治郎・奥村 弘信・津田 実・古市 昌造				
	井戸 澄夫・大木 秀実・山元 誠一・川原 伝治・井上 一夫				
〔支部委員〕	実行委員	会計委員	実行委員	会計委員	
本局	(原田加津子)(立花 雅彦)	梅津 (吉田 武)(吉田 武)			
	(竹田 勉)	横大路 (岡本 義弘)(岡本 義弘)			
高速	(篠田 勝美)(出海 洋三)	錦林 (田中 忠久)(田中 忠久)			
	(出海 洋三)	烏丸 (台川 敦美)(坂田 利春)			
九条	(上島 和彦)(上島 和彦)	洛西 (武田喜久郎)(武田喜久郎)			
五条	(牧野 健)(牧野 健)	西賀茂 (横田 義一)(横田 義一)			
醍醐	(岡本 勇)(岡本 勇)	市役所 (荒田又之助)(荒田又之助)			
O B	(津田 実)(津田 実)				

### 〔山岳連盟役員〕

※平成元年～2年度の役員について昨年の総会で決定済み。

理事	………	吉田 武(常任)・大倉寛治郎
評議員	………	出海 洋三
国体委員	………	鷺見 敏一・吉田 武
自然保護委員	………	近藤 薫・坂井 久光・奥村 弘信
遭難救助隊員	………	吉田 武・大倉寛治郎・岡本 義弘

担当より提案の後、質疑に入りました。

(質問) 事務局をもう1名増員して4名にしてはどうか。

(回答) 役員として名前の挙がっている者で互いに助け合っていきたい。

(質問) 役員として岳連の地区指導委員等で構成する「指導委員会」を新設してはどうか。

(回答) 規約改正等の手続を経る必要があるので懸案事項として取り入れる。

以上質疑の後、原案どおり承認されました。

## (6) 平成2年度 京交山岳部年間計画 (大槻副部長)

山名の訂正の後、原案どおり承認されました。(P.21に掲載)

## (7) その他

★ 津田 実氏の名誉部員表彰について (岡田部長)

津田実氏を名誉部員として表彰しました。

表彰に先立って、部長より主旨説明がありました。津田氏は長年に亘り部の発展に尽しており、名誉部員要綱に基づき部長推薦するものです。推薦により満場一致、盛大な拍手をもって承認されました。

津田氏に部長より名誉部員バッヂが手渡されました。(名誉部員第17号)

以上、議案討議のあと初代部長近藤薫氏の“新しい年にふさわしい活動をお願いしたい”との挨拶を受けて、総会を終了しました。

尚、総会にあたり諸先輩より御厚志をいただきました。

# 例会報告

例会No	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1769	(変更) 権現山 大渚山	2月10日 ～ 14日		大槻 雅弘	関本 俊雄 三橋 勉	(別稿詳報)
1770	籠山 ニタンダニ	2月18日		伊藤 潤治	三橋 勉 (他1名)	(別稿詳報)
1771	武奈ヶ岳	2月24日 ～ 25日		吉田 武 大倉寛治郎	岡田 茂久	(次号報告)
1772	大段山 千町ヶ峰	3月 4日		伊藤 潤治	三橋 勉 大槻 雅弘	(別稿詳報)

# 部 員 動 静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
空 山	2月25日		津田 実 大槻 雅弘 (他1名)	(別稿詳報)
山科北部の山	2月28日		山岡 昭弘	(別稿詳報)

# 雑 報

## ✿ 新入部員のお知らせ

服 部 正 義 所 属 洛西営業所

住 所 〒621 亀岡市南つつじヶ丘大葉台1丁目22-3

生年月日 昭和19年10月18日生

## ✿ 退部のお知らせ

錦林営業所 生 田 敏 雄

## ✿ 他山岳会の会報(受贈分)

3月号 近畿山行(近畿山行会)、比良山岳(京都比良山岳会)、京都山岳(京都山岳会)

木雞(好山好会)、一等三角点(近畿山岳愛好会)、山友(京都山友会)

趣味の登山(京都趣味の登山会)、北山(北山クラブ)

2月号 青嶺(京都山の会)

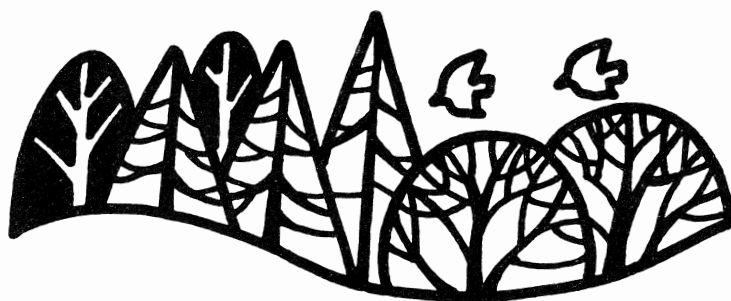
その他 新宮山彦ぐるーぷ(1989年後期 行事報告綴)

## ✿ 山の総合雑誌“岳人”に当部が紹介されています

山の総合雑誌“岳人”4月号に京交山岳部が2ページにわたって紹介されています。是非ご覧下さい。

平成2年度 京交山岳部年間計画

月項目	テーマ	大会山行	山行	行事	備考	
4	残雪を求めて	春山大会 荒島岳(7・8)	新人歓迎山行 金毘羅山 スキー登山 願教寺山 (14・15) 白馬山と城ガ森山			
5	新緑を求めて		笈ヶ岳(3~6) 甘利山 姥ヶ岳〔福井〕 (19・20) 白髪山(27)			
6	深い山へ		黒法師山(2・3) 高畑山〔鈴鹿〕(3) 大棚入山(16・17)			
7	3,000mの頂 へ 千支の山	夏山大会 白馬周辺の山 (27~31)	御在所岳(8・9)	府県境シリーズ (毎月一山程度)		
8	沢登りを楽しく 山と海		弥仙山ほか丹後の山と海 水良浴(18~20) 仙ノ倉山・平標山・苗場 山(25~29)		厚生会登山 妙高山 (10~13)	
9	初秋の山へ		南木曾岳(9) 丹沢山(22~24) 地藏山・笠捨山〔大峰南 部〕(22・23)		お月見登山 大江山	
10	秋の高原		経ヶ岳(6・7) 青山高原(14) 若丸山(20・21) 雪彦山〔岩登り〕			とびうめ国体
11	秋を求めて	秋山大会・合同登山 (17、18)	金剛堂山(3・4) 美濃俣丸(3・4)			
12	千支の山と史跡		伊賀谷山(2) 有馬富士(9)		納山祭	
1	スキーを楽しく	初登山(6) スキー大会 スキーバス	八ヶ岳(13~15)		新年会	
2	雪と遊ぶ	雪山大会 (16~18)	志賀高原 岩菅山 (10・11)			
3	スキーと温泉		白馬岳から蓮華温泉 (24・25) 八ヶ岳		総会	
府県境シリーズの山		三原山 鎌倉山 黒滝山(大山)	大迫山(西谷) 西山 篠原山(盛郷) (宮尻) シンコボ 三国山		登尾の頭 途中峠の上 (横谷)	※)は点名



SINCE 1980

**THE LOG CABIN CO.**

H.HASEGAWA'S SHOP

FOR ALPINISTS

KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品  
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

**サンコークラフト**

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88

TEL (075) 771-3442

帆布・濾布  
テント・シート  
雨合羽

## 木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前

TEL 801-5331 (代)

西大路営業所

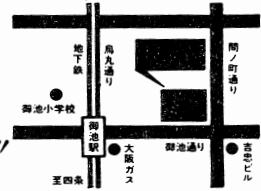
下京区西大路七条下ル

TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

## 今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、  
注目のスポーツ  
カヌーをはじめ、  
ひと味違う充実の  
品揃えは必見のもの!!



## ビッグホリイケ

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)

京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)

☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング  
アウトドアウェア・US旗出品  
ポイスカフト用品

**mountain**

〒604 京都市中京区二条通河原町西入  
TEL 075(258)-0548

●営業時間 AM10:00~PM8:00 毎週火曜定休  
(株) スポーツ コニシ

●技術とサービスの創る!印刷

株式会社

## 北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷 ●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL(075)791-6125(代)

FAX(075)791-7290

## お知らせ

御得意様各位

平素は、格別のお引きたてにあずかり厚く御礼申し上げます。

昭和63年6月より、新住所にて営業致します。旧倍に増して、御来店の程心よりお待ち申し上げます。

記

新住所 〒600 京都市下京区不明門通り六条下る西側  
(烏丸通りより1筋東の通り)

TEL 075-351-6598代

(株) 小林地図専門店

平成2年4月1日

京都市中京区壬生坊城町 48

京都市交通局内

## 京交山岳部